

港区立御成門中学校

平成29年度 授業改善推進プラン

◎関係法規
◎教育基本法
◎部・区教育目標等

教育目標
・豊かな心とたくましい体をもつ生徒を育てる
・他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒を育てる
・自ら計画し進んで学習する生徒を育てる

◎学校、地域の実態
◎保護者や地域の願い
◎期待される生徒像

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

○言語活動の充実と授業改善 (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得 (2)思考力・表現力・表現力等の育成
(3)個に応じた授業の展開 (3)課外における学習時間の確保 (4)読書活動の充実

- ①全教育活動における言語活動の推進
- ②各種検定、作文、絵画コンクールへの積極的参加
- ③物語文や漢文、百人一首・俳句等の古典文学の暗唱の推進
- ④生徒による自己評価・授業評価
- ⑤数学・理科・英語における少人数集団を活かした指導
- ⑥各種補習教室の開催と宿題を中核にした家庭学習の推進
- ⑦リーディングアドバイザースタッフと連携した読書活動
- ⑧アクティブラーニングの視点から不断の授業改善

各教科の指導の重点を確実に生徒に身につけさせるため次の取組を行います

道徳教育の指導の重点

- ・人権尊重・生命尊重の精神に基づき、誰にでも公正・公平に接しようとする心構えを育て、社会との関わりを育み、社会正義の力となる態度を育てる。
- ・道徳の授業では「A-(3)自分のよさを伸ばす」「B-(6)多くの人に感謝する」を重点化し、教科等における体験活動を生かして、共感する心構えや態度を育てる。
- ・道徳授業地区公開講座などの活動を推進し、保護者・地域住民と連携して生徒の社会性を育てる。

総合的な学習の時間の重点

- ・自ら課題を見つけ、考え、そして主体的に解決できる能力を育成するため、3年間を見通した指導を計画的に実施する。
- ・学び方やものの考え方を身に付けさせ、将来に渡り学習意欲と態度を育てる。
- ・上級生が下級生にガイダンスや研究発表をする中で、学び合う力を身に付けさせる。

国語	関心・意欲を高め、授業に取り組めるように、ペア学習やグループ学習などのアクティブラーニングを効果的に取り入れる。漢字・文法の小テストを繰り返し行い、基礎基本の定着を確実に補う。また、教科書外の様々な文章に意図的に触れさせ、読み比べ等を行い、情報を比較して読む姿勢を身に養う。
社会	興味関心をもつ課題に取り組めるように、ICT機器の活用や学習を確かなる言形態（一人一人）で、個人上での社会的にも活用できる多角的に扱う。
数学	習熟度別授業の形態を生かして、基礎的な問題の解決を図る。数多思考力向上の機会を創出し、問題解決の意欲を高める。
理科	少人数授業の利点を生かし、観察・実験・実技の習得を目指す。また、理論的に考えるための観察・実験・実技の習得を図る。ICT機器を活用し、生徒の興味関心を高め、基礎学力の定着を図る。
音楽	幅広い音楽活動に興味・関心がもてるよう、主体的な活動を中心に行う。音楽活動の基礎基本となる表現力を身に付けさせるために、自分の思いを伝えたり、お互いに話し合ったりなどの言語活動を取り入れる。歌唱や器楽の苦手な生徒には、個別の指導を行い、苦手意識をもたせないよう工夫をする。
美術	ICT機器の活用や、生徒の個性を尊重し、表現の幅を広げる。また、制作活動を通じて、制作意欲を高め、表現力向上を図る。
保健体育	基本的な集団規律を高め、授業に集中できるように指導する。また、運動場での活動を通じて、健康意識を高め、体力向上を図る。
技術	基本的な技能の繰り返しによって、完成度の高い作品の制作経験から、制作意欲を高め、表現力向上を図る。また、基礎的な知識や学習意欲を育てる。
家庭	苦手意識の高い分野では、自信をもって取り組めるように繰り返しの学習によって技術を身に付けさせる。
英語	① スپرイングテスト（長期休業明け）：語彙力を伸長する。 ② インタビューテスト（学期ごと）：NTとの会話を通し、表現力、話す力を伸ばすとともに、既習事項を定着させる。 ③ 評価プリント（単元ごと）：既習の単語や文法の確認をすることにより、語彙力や理解力をつける。 ④ 暗唱テスト（ページごと）：まとまりのある会話文を繰り返し読むことにより、読解力をつける。

生活指導の重点

- ・生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、学校規律のルールに基づき、規律ある生活を送ることができるよう規範意識を育成する。
- ・一人一人の生徒理解に努め、よさを認め、励ます一方、生徒の悩みに対応できるように教育相談機能を充実させる。SCとの連携を強化。
- ・不登校の問題に対しては、スクールカウンセラーや適応指導教室などと連携して組織的に対応する。
- ・不審者侵入避難訓練や防災訓練など外部の専門機関と連携した体験的・系統的な安全教育及び防災教育を通して、生徒の危機管理能力を育成する。
- ・SNSの使い方を含め、ネット犯罪に対しセーフティ教室などを通して被害の未然防止に努めるとともに情報モラルを身に付けさせる。
- ・地域行事やPTA行事などのボランティア活動に積極的に参加させ、地域ぐるみで生徒の健全育成にあたる体制づくりを推進する。

進路指導の重点

- ・3年間を見通した計画のもとに、自己理解を深め、キャリアについて考え、主体的に進路を選択する能力と態度を育て、生涯を通じて学び続ける意欲を培う。
- ・職業調べや職場体験などを実施することにより、実体験を通し、自己の職業観やキャリアについて考えさせる。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○週時数30.5コマの実施（第1・第3土曜日の授業実施） ○朝読書の全校実施 ○道徳授業の確保 ○3日間の職場体験実施 ○食育に関する指導を実施	○数、理、英での少人数授業の実施 ○英検・漢検・数検の校内実施 ○生徒による授業意識調査 ○査前、長期休業中の補充教室の実施（全学年）	○学年ごとの評価評定法冊子の作成と配布 ○評価評定保護者全体説明会の実施 ○定期的な教科部会の実施 ○学力調査結果の分析	○特別支援教育の推進 ○個別指導計画の作成 ○学習支援員との連携 ○ICTを取り入れた研究授業の実施 ○リビビ、リビビの教育推進校、言語能力向上拠点校、御成門Pカミ	○保護者と連携して農業体験や身近な街のコンサートを実施 ○平和まつり、みなとキャンプ村の参加、協力 ○外部ダンス指導員によるダンス授業の実施 ○率直的な活動の推進